

問 本市全体の児童生徒数は今後6年間で37%減少する。一方、学校の適正規模は1学年20名程度、中学校は2クラス以上を目指すところあり、当面は現状維持としている。この矛盾について見解を問う。

答 中学校の再編計画案については、現時点では学校を維持しつつ、今後の生徒数の推移を注視し、生徒数の減少が今後も進み、学校の維持が難しくなった段階で改めて宿毛中学校との統合を検討するという計画としている。

学校統合の検討を進めるにあたり、地域の地理的条件や学校の現状、児童生徒や保護者、地域の意向を踏まえることが不可欠と考えている。

問 再編計画では西地区の小学校では新校舎建設が計画される一方、東地区や南地区などは大規模改修や維持にとどまる。双方に教育環境や安全対策に大きな格差が生まれてくる。

大規模改修とはどの程度の規模を考えているのか問う。

答 具体的にはまだ決まっていないが工事内容としては屋根や外壁、給排水設備などの

修繕、教室、多角的スペースの見直し、トイレの洋式化やバイアフリー化、空調設備の効率化等、様々な設備更新を検討したい。

問 周知が足りないと感じるが、今後、未就学児の保護者を対象とした意見交換を設ける予定があるか問う。

答 現時点では保育園などへ出向いて説明会を開催する考えはないが、土曜日や日曜日の昼間に改めて説明会をできないか検討している。



ペットボトルの回収について

問 飲料水の販売形態がアルミ缶、スチール缶からペットボトルに変わってきているが、来年度からの収集体制についてペットボトルの回収回数を増やすなど見直す予定があるか問う。

答 資源ごみにおけるペットボトルの割合の拡大に対応するため、来年度より毎週回収している缶の日と隔週で回収しているペットボトルの日を入れ替えて対応する。



井上 将 議員

部活動の地域移行における在り方について

問 県の方針案として、令和10年4月から原則として教員が休日の部活動指導を行わない体制に移行させるとあるが、

本市で部活動改革をどのように進めていくのかを問う。

答 県が示すスケジュールに沿って地域展開を推進していくためには、今後3年間で大変重要な期間となる。本市では段階的に地域展開を進めて、現在4団体が宿毛市地域クラブとして活動している。また、学校と地域が協力して部活動を支える地域連携の取り組みとして、部活動指導員の活用や、拠点校制度の導入を進めてきた。

今後、本市の実情を踏まえつつ、周辺市町村の動向も注視しながら、新たな部活動改革の方針策定について早急に検討し、学校教育と地域スポーツの双方の視点を踏まえつつ、責任を持って地域展開の実現を着実に進めていきたい。

問 指導者の確保について、人材バンクや応援企業登録制度など、自治体レベルで地域における潜在的な指導者人材発掘の体制整備が必要だと考える。所見を問う。

答 人材バンクや応援企業登録制度については、市単位ではなく県全体で実施することで、より効果的、効率的に運

用できると考えており、県に対して働きかけていきたい。



問 対外試合や遠征など、休日の移動について、スクールバスを貸出し、活用してはどうかと考える。所見を問う。

答 貸出しを認めた場合、全ての部活動の生徒等に対して、同様の対応が必要となることや、責任の所在や損害賠償の範囲が不明瞭、事故が発生した場合は通学運行に支障を来すことも考えられることから、教育活動の目的以外での使用は現段階では適切ではない。

学校給食について

問 近隣自治体では、食材の